

## 第3章

[STAGE1] 電気屋なのに  
これを知らないのはまずい

# はんだ付け 基礎の基礎

島田 義人 Yoshihito Shimada

はんだ付けを行うにはさまざまな道具を準備して、適切に作業を行う必要があります。また、はんだ付けが正常に行われたかどうかを外観から判断する必要があります。ここでは、はんだ付けの概念から作業手順までをくわしく説明します。

場数を踏めば  
踏むほど  
はんだ付けは  
うまくなる!



今月号に付属している画面プリント基板に部品を搭載して完成させるには、「はんだ付け」という作業を避けて通ることはできません。本章では、はんだの基礎知識やはんだ付けを確実に成功させるために必要な工具類を紹介します。

## 基本中の基本! はんだ付けの七つ道具

### ■ 道具1：はんだごて

● MyARM モジュールを作るときは15～30 W がちょうどいい

はんだごてを使うと、基板、部品の端子、リード線などの母材と、糸はんだを240～250℃の温度にまで温めることができます。母材やはんだの温度上昇は、こての出力やこて先の形状、また母材の大きさや形状によって違います。



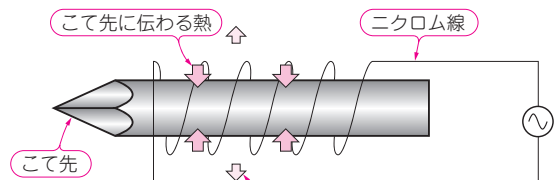
写真1 はんだごてのいろいろ

はんだを溶かし、部品と基板を接着する

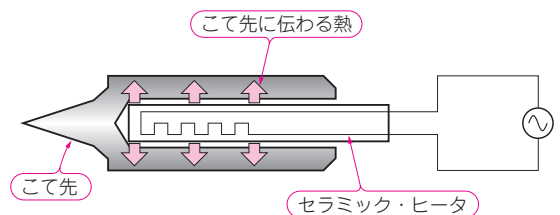
(上) 100 W 大熱容量型ニクロム線ヒーター・タイプ BN-100 [太洋電機産業株式会社]

(中) 30 W ニクロム線タイプ KX-30 [太洋電機産業株式会社]

(下) 20 W セラミック・タイプ PRESTO [白光株式会社]



(a) ニクロム線ヒーター・タイプ



(b) セラミック・ヒータ・タイプ

図1 はんだごての構造